

乗用車スタイルに関する最近の傾向

山家哲雄 照明デザイン研究所 ○山家 哲雄

Abstract

An automobile is defined as a vehicle that rotates its wheels using the power of an engine, moves freely on roads without using rails or overhead wires, and literally moves by its own power (Auto) and mobility (Mobile).

The design of automobiles (limited to passenger cars in this paper) undergoes changes in body style (basic form) when factors such as the “social environment,” “automotive technologies,” and “public demands” shift significantly due to the times.

Fascia design, which refers to the visual appearance of the automobile's front view (Front Look, Front Design), is a crucial design element that determines the vehicle's overall impression.

This research study examines how the spirit of the times and diverse lifestyles “change the body style and body size of passenger cars,” analyzing the evolution of Japanese passenger car styling.

1. はじめ

自動車とは、原動機の動力によって車輪を回転させ、軌条や架線などを用いずに、文字通り自らの力(Auto)で路上を自由に動くこと(Mobile)のできる車両と定義される。

自動車(本稿では乗用車に限定)のデザインは、時代性による「社会環境」「自動車の諸技術」「人々の要求」などが大きく変わる時、ボディースタイル(=基本形態)が変わる。

自動車を前方から見た外観の見栄え(Front Look、Front Design)を意味するフェイスデザイン(Fascia Design)は、自動車の印象を決定付ける重要なデザイン要素である。

本調査研究では、時代性や多様なライフスタイルが、「乗用車のボディースタイルおよびボディサイズ等々を変える」と考え、日本の乗用車のスタイルの変化を考察した。

2. 時代性とボディースタイルの変遷

近年の乗用車スタイルに関する特徴的な傾向は、普段使いの乗用車でありながら、「走る楽しさを体感することができる車創り」がブームとなっている。

それらの特徴は、

- ・ドライバーファースト
- ・パフォーマンス(高性能)
- ・エクステリアデザイン(魅力的外観)

などが挙げられる、

時代性(The times characteristics)とは、「その時代の性質」「その時代らしさ」「物事が現在と大きく関わりを持っているさま」を意味し、特定の出来事、または特定の期間などで知られている歴史上の期間のことであり、下記に示す通りである。

- ・国民車構想 (1955年)
- ・高度経済成長期 (1955年～1973年)
- ・マイホーム主義 (1960年～)
- ・家族構成の変化(核家族化) (1963年～)
- ・スポーツカーへの憧れ (1967年～)
- ・公害問題 (1970年～)
- ・石油ショック (1973年～1983年)
- ・バブル景気 (1986年～1991年)
- ・地球環境問題 (1992年～)
- ・高齢化社会 (2006年～)

自動車のボディースタイルに関するデザインは、エクステリアデザイン(Exterior design; 外観の意匠設計)と呼ばれ、自動車のデザインにおいて、最も注目される領域である。

Recent Trends in Passenger Car Styling

Tetsuo YAMAYA

3. まとめ

以上のように、各時代の社会環境や人々の生活のあり方の変化により、それらに対応した自動車が求められていることが分かった。

すなわち本調査研究の一成果として、「時代性が自動車のボディースタイルを変える」と結論付けすることができる。

今後は、「高齢化社会」と云う時代性により、専用内外装のデザインが魅力的な、「高級」「小型」で、かつ「高性能」なSUVと云う「プレミアムコンパクトカー」が主役になると考える。

加えて、「衝突被害軽減装置」や「運転支援システム」などを追求した安全性を重視した自動車が益々開発されることが予期される。

さらに、衰退したオーソドックスな3ボックス構造の「セダン」の復権の兆しも伺えるのも興味深い。

著者が自動車メカー各社に特に望むことは、「クルマ好きを喜ばせ、かつ育てようとする自動車の創造」および「その車を所有し、運転する楽しさを味わえる自動車の創造」を推進して欲しいと願う。

今後の自動車の諸技術開発およびデザインテクノロジーの進歩に期待したい。

謝 辞

後に、本研究成果の発表にあたり、日本大学生産工学部 創生デザイン学科 教授 中澤公伯先生に「学術講演会」の開催に関するご案内を賜りました。

加えて、日本大学生産工学部には、本研究成果を発表する機会を与えて戴きました。

ここに、ともに感謝の意を表します。

ありがとうございました。

《参考文献》

- [01] 山家 哲雄:「自動車フェイスアデザインの動向 -LED照明とカーデザイナー-」、平成23年度(第44回)日本大学生産工学部学術講演会講演概要集、2-15、pp.263-264 (2011)
- [02] 山家 哲雄、他:「自動車フェイスアデザインの動向 -Beetle デザインの変遷-」、平成23年度(第35回)照明学会東京支部大会講演論文集、p.13 (2011)
- [03] 山家 哲雄、他:「自動車のフェイスアデザインにおけるアイコンに関する一考察」、平成25年度(第37回)照明学会東京支部大会講演論文集、p.35 (2013)
- [04] Tetsuo YAMAYA, et al.: "Study on Correlation of Transition of the Head Lamp Technology and Fascia Design of the Car", Proceedings of the 8th Lighting Conference of China, Japan and Korea, Paper No.P28-(2015)
- [05] Tetsuo YAMAYA, et al.: "Fundamental Study on Car Fascia Design - Headlight Design Trends from the Past to the Present and Prospects for the Future -", Proceedings of the 11th Asia Lighting Conference (Collected Paper Abstracts of ALC2018), Paper No.141 (2018)
- [06] 山家 哲雄:「自動車用ヘッドライトの技術進化とフェイスアデザインの変遷」、平成30年度(第51回)日本大学生産工学部学術講演会講演概要集、5-47、pp.591-594 (2018)
- [07] 山家 哲雄:「自自動車用ヘッドライトの技術的進歩とフェイスアデザインのトレンドに関する調査研究」、令和元年(第52回)日本大学生産工学部学術講演会講演概要集、6-15、pp.550-553 (2019)
- [08] 山家 哲雄、他:「自動車用照明のデザインテクノロジーの進歩と変遷に関する調査研究 -フェイスアデザインおよびリアデザインの趨勢-」、令和4年(第55回)日本大学生産工学部学術講演会、5-4、pp.411-414 (2022)
- [09] 山家 哲雄:「時代性と自動車のボディースタイルに関する相関性について」、令和4年(第56回)日本大学生産工学部学術講演会、5-38、pp.532-533 (2023)
- [10] 山家 哲雄:「時代性と自動車のボディースタイルに関する相関性について」、令和4年(第56回)日本大学生産工学部学術講演会、5-20、pp.554-555 (2024)
- [11] Dorling Kindersley Limited 編、(株)ワイバーン 訳:「THE CAR BOOK(世界の自動車大図鑑)」、初版、(株)ネコ・パブリッシング、pp.8-351 (2012)
- [12] 尾澤 英彦:「JAPANESE PASSENGER CARS(日本車大図鑑)」、第2版、(株)カーグラフィック、pp.17-626 (2017)
- [13] 釜池 光夫:「自動車デザイン 歴史・理論・実務」、三樹書房、pp.17~233 (2013)
- [14] 青山 元男:「車のすべてがわかる事典」、(株)ナツメ社、pp.10-251 (2016)

Corresponding Author: Mr. Tetsuo YAMAYA
Affiliation: TETSUO YAMAYA LIGHTING DESIGN LAB
E-mail: tetsuo.yamaya@gmail.com